

小野先生！皆様！

第19期OB 喜多村 留衣

小野ゼミ現役生の皆様、OB・OGの皆様、お疲れ様です。また、新しくゼミに入会した第22期生の皆様、初めまして！小野ゼミ第19期OBの喜多村留衣と申します。学生時代の私についてはとりあえず、小野ゼミHPの私の自己紹介ページを見てください。

さて、このエッセイの執筆にあたり、テーマの選定に非常に悩みました。私は卒業エッセイ執筆時に「すみません、文書を羅列しただけのおもんない冗長エッセイになっちゃいました」という痛すぎる内容を選んでしまい、後悔しているからです。そこで、小野ゼミOBとして初年度に執筆するこのエッセイは、真面目にだらだらと社会人1年目としての活動について書こうかと思えます。

まずは配属について。慎重性と計画性の欠片もない「人生脳筋」でこれまで育ってきた私は、内定が決まった時点から絶対に地方営業を行うことになると確信していたのですが、蓋を開けるとまさかの商品部。私の名刺には、「東京海上日動火災保険株式会社 火災企業新種業務部 企業新種保険グループ」という、長すぎるし何をやっているのか全く分からない所属が書かれています（当社は、配属先発表時に同期全員の前で名前と配属先を呼ばれるのですが、私の配属先発表時にはフロアで笑いが起きました。これは恐らく、同期の中でも私が地方に飛ぶという共通認識があったからだと思えます）。大学時代、ゼミや様々な課題を周囲のおかげで何とか乗り越えてきた私にとっては、非常にタフな生活が幕を開けたのでした（損害保険会社の商品部が何をやっているのかについて、興味がある人はお話しします。楽しいですよ！）。

次に日々の業務について。主に個別案件毎の保険料設計と数理業務（とその他もろもろ、商品部が開発や管理を行っている各保険商品をお客様に届けるのは営業の皆様ですので、営業との打ち合わせも大量にあります）を担当しているのですが、前述のとおりタフな生活を送っておりました。何がタフなのかはここで書くとも量が膨大になってしまうため省略しますが、正直小野ゼミでの生活と同レベルくらいにはタフでした（しかも少なくとも当社では、家に仕事を持ち帰ることや、継続的な残業は厳禁のため、毎朝胃を痛くしながら通うときもありました）。いわゆる「花形部署」に配属していただいたことに対しては本当に感謝しているのですが、「商品部1年目の洗礼」を厳しく受け続けた1年間であったことは間違いありません（商品部は基本的に理系院生と、現場で経験を積んできた先輩方で構成されています。時々初手配属で私のような脳筋が商品部に配属されるのですが、そのような人は周囲の優秀さに圧倒され、非常に苦しい1年目を送ると言われています。これが「商品部1年目の洗礼」です）。

さて、ここからは、小野ゼミ生の時の私と社会人としての私を比較し、変わったことと変わらないことをまとめてみようかと思えます。現役生の皆様にも通ずることかもしれませんので、ぜひ参考にしてみてください。

ください。第1に、変わった点としては「責任感」だと考えています。私の卒業エッセイを読んでいただければ分かるかと思いますが、小野ゼミ時代の私は様々な仕事を同期に任せてしまい、大変な迷惑をかけてしまいました。一方で、私が今いる部署では、1年目であろうと重大な案件の保険料設計を任せられるため、私の決断が組織としての決断となります。私が Yes という決断を下せば、数千万～数億円の保険料が動いてしまうのです。そう考えると、ロジックを1つ積み上げるだけでも、徹底的なリサーチや別案との比較・検討が必要になってきますし、上司も徹底的にロジックを詰めてきます。これは本当にゼミ生時代の私に言い聞かせたいと反省しております。同期の皆さん、大変申し訳ございませんでした。

第2に、変わらない点としては「何とかなる精神」だと考えています。1年間を振り返り、膨大なデータ量の分析が終わっていない時、営業の皆様との交渉が難航している時、その他本当に業務がキツくなった時でも、「まあきっと何とかなるだろう」という精神のもと業務を遂行することができました。こればかりは本当に自分の育ちに感謝しています。やっぱり脳筋が最高なんです。相当なプレッシャーがかかる場面においてもいつも通りのパフォーマンスを出し続けるためには、メンタルの持ち方が重要であると強く感じております。

つらつらとまとまりもなくここまで文章を書いてしまいましたが、結論、私は元気に生活することができています。小野先生、私は最後の卒業エッセイにおいて、「しばらく私はちゃらんぼらんです」と書いた記憶があるのですが、安心してください、仕事ではともかく、プライベートでは全然ちゃらんぼらんを脱却できていません。こちらの詳細は先生と飲みに行く日まで温めておきます。今後も、小野ゼミ OB として、今後も全力で取り組み、結果を残していく所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。あと皆さん、私は小野ゼミのイベントに積極的に顔を出したいと考えておりますので、気軽にご連絡してください！



配属先の同期と。パワフルな人が多く、日々元気もらっています。同期との飲み会では既に記憶を複数回消し飛ばしていますが、飲みに行ってくれる優しい皆さんです。著者は後列右から2番目。



第19期と。ウエンツ（三浦）とはこの1週間前に飲み、この時彼は広島です。2次会の記憶があんまりないです。著者は左から3番目。